



優秀賞

大好きなごはん

大仙市立花館小学校

四年

高^{たか}橋^{はし}健^{けん}斗^と

ぼくは、お母さんに怒られることがある。何種類もおかずを作って食たくならべても、おかずだけ全部食べてしまうからだ。お母さんは、

「おかずとごはん、いっしょに食べてね。」

と言う。でもぼくは、言うことを聞かない。なぜならぼくは、真っ白いごはんは、たらこをのせて食べるのが好きだからだ。お母さんに怒られても、これからも続けてしまおう。「ごめんねお母さん。」

ぼくのお気に入りは、たらこ以外にもある。すじこ・こんぶ・からしめんたいこ・のりなど数えてみるとたくさんある。同じく主食になるパンはどうだろう。バター・ジャム・チョコ。がんばっても、思いうかぶのはこのくらいだ。そう考えてみると、真っ白いごはんは、食物の世界のオールラウンダーだ。

こんな調子で、ごはんをたくさん食べるので、わが家はごはんが足りなくなる。そうすると、お母さんは、土なべでごはんをたいてくれる。ほかほかの温かい土なべが食たくに運ばれてくると、みんな笑顔になる。すい飯器でたいごはんより、土なべでたいごはんのほうがずっとおいしいからだ。土なべのふたを取った

ときの湯気、たきたてのごはんのかおりをかぐと、とても幸せな気持ちになる。ごはんはぼくをいやしてくれる。

あきつぽいぼくにも、毎日続けていることが一つある。それは、米とぎだ。お母さんに必要な合数を聞き、米をといだら水を計って予約ボタンをおす。今のところ、一度も計りよをまちがえていないから、毎朝おいしいごはんが食べられる。お母さんにはほめられ、家族全員に感しゃされるから気分がよい。次は土なべでごはんをたいてみたいと思う。どうやら火加げんがむずかしいらしいので、これから少し勉強してからチャレンジしたい。

「米」という漢字は、分かいると八十八と読むことができる。と本で知った。本に理由が書かれていたけれど、ぼくはとておどろいた。それは、昔から米を作るには八十八もの手間がかかり、農家の人は時間と手間をかけて大切に育てているからだ。知ったからだ。ぼくのうちには田んぼがないからどのようにして米を育てるのか分からなかったけれど、種まき、育苗、田起こし、代かき、田植え、管理作業、収かく、かんそう、出荷などなど、やはり八十八に近いくらいに大変な手間がかかることを知った。今更以上大切に米を食べたいと思った。

五年生になると、自分たちで米を育てる体験をする。ぼくも、手間をかけてお米を大切に育てたい。「八十八」のひみつを知ったから、だれよりも心をこめて育てていける自信がある。